

## 2014 年度 工学研究科共通科目 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T20000101	ベンチャービジネス論	2.0	前期水曜 5 限	斎藤 恭一	研共 2
T20000201	ベンチャービジネスマネジメント	2.0	後期水曜 5 限	片桐 大輔	研共 2
T20000301	技術者倫理	2.0	後期金曜 5 限	安藤 昭一他	研共 3
T20000401	技術完成力プログラム	2.0	前期月曜 4 限	藤井 知	研共 4
T20000501	技術経営力プログラム	2.0	前期水曜 4 限	井上 里志	研共 5
T20000701	国際研究実習 Ia	1.0	通期	各教員	研共 6
T20000801	国際研究実習 Ib	2.0	通期	各教員	研共 7
T20000901	国際研究実習 IIa	1.0	通期	各教員	研共 7
T20001001	国際研究実習 IIb	2.0	通期	各教員	研共 8

T20000101

授業科目名：ベンチャービジネス論  
 科目英訳名：Venture Business  
 担当教員：斎藤 恭一  
 単位数：2.0 単位  
 開講時限等：前期水曜 5 限  
 授業コード：T20000101  
 講義室：自然科学系総合研究棟 2 マルチメディア  
 「自然新棟 マルチメディア講義室」とは自然科学系総合研究棟 2 号館 2 階の講義室である。

## 科目区分

2014 年入学生：選択科目 S30 (T211:工学研究科建築学コース(前期), T212:工学研究科都市環境システムコース(前期), T221:工学研究科デザイン科学コース(前期), T231:工学研究科機械系コース(前期), T232:工学研究科電気電子系コース(前期), T233:工学研究科メディカルシステムコース(前期), T241:工学研究科共生応用化学コース(前期), T251:工学研究科建築学コース(後期), T252:工学研究科都市環境システムコース(後期), T261:工学研究科デザイン科学コース(後期), T271:工学研究科機械系コース(後期), T272:工学研究科電気電子系コース(後期), T273:工学研究科メディカルシステムコース(後期), T281:工学研究科共生応用化学コース(後期))

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 起業家、投資家、起業コンサルタント、法律・知財関係者を講師に、オムニバス形式で起業とベンチャービジネスの経営の実際について学び、ベンチャービジネス、企業活動への理解を深める。

[目的・目標] 起業家、投資家、起業コンサルタント、法律・知財関係者を講師に、オムニバス形式で起業とベンチャービジネスの経営の実際について学び、ベンチャービジネス、企業活動への理解を深める。

[授業計画・授業内容] 以下のような内容の講義を学内外の講師によるオムニバス形式で行う。

1. ガイダンス (受講者選抜)
2. 起業家による講義 テラモーターズ? 徳重徹氏?みらい 嶋村茂治氏 ?ネオ・モルガン研究所  
藤田朋宏氏 ?パワー・インタラクティブ 岡本充智氏 日本インサイトテクノロジー? 池和田暁氏  
?アクティブブレインズ 平山喬恵氏
3. 大学人による講義 京都府立医科大学 島田順一教授 東京大学産学連携本部 各務茂夫教授  
千葉大学 V B L 星野勝義教授 千葉大学 V B L 斎藤恭一教授
4. 知的財産に関する講義 ?環境浄化研究所 藤原邦夫氏 千葉大学産学連携・知的財産機構 高橋昌義氏
5. 財務に関する講義 千葉大亥鼻イノベーションプラザ 牛田雅之氏
6. その他 なのはなコンペ (学生版) の紹介

[評価方法・基準] レポート、出席

T20000201

授業科目名：ベンチャービジネスマネジメント  
 科目英訳名：Venture Business Management  
 担当教員：片桐 大輔  
 単位数：2.0 単位  
 開講時限等：後期水曜 5 限  
 授業コード：T20000201  
 講義室：

## 科目区分

2014 年入学生：選択科目 S30 (T211:工学研究科建築学コース(前期), T212:工学研究科都市環境システムコース(前期), T221:工学研究科デザイン科学コース(前期), T231:工学研究科機械系コース(前期), T232:工学研究科電気電子系コース(前期), T233:工学研究科メディカルシステムコース(前期), T241:工学研究科共生応用化学コース(前期), T251:工学研究科建築学コース(後期), T252:工学研究科都市環境システムコース(後期), T261:工学研究科デザイン科学コース(後期), T271:工学研究科機械系コース(後期), T272:工学研究科電気電子系コース(後期), T273:工学研究科メディカルシステムコース(後期), T281:工学研究科共生応用化学コース(後期))

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 40

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 5名程度で1グループをつくり、グループワークを通じて、ビジネスプランを作成し、発表し、検討するというサイクルの中で、自ら考え進める力を養成する。講義とディスカッションを通じて個人の考えをアウトプットすることを、さらにグループワークを通じてチームの考えをアウトプットすることを目指します。

[目的・目標] 1.ベンチャービジネスの現状と各種の起業支援策について学ぶ。2.資金調達やビジネスプランの書き方について学ぶ。3.ベンチャーの経営や運営の実際について学ぶ。

[授業計画・授業内容] \*グループワークは5人1チームで最大8チームを想定しています。\*グループワークの発表については、10分発表・5分ディスカッションの15分を1チーム分に配分する時間配分を想定しています。\*第3回～第5回の講義の対象となるビジネスは、「新しい価値」「新しい顧客」を創造するビジネスであれば、何でもよいこととします。\*第7回～第9回を対象となるビジネスは、「大学発の高度な科学に裏付けされた技術」を実用化するビジネスとします。\*第10回で財務計画を念頭に置くことができようになり、第11回で第7回のビジネスモデルのブラッシュアップを行います。\*講義とディスカッションを通じて、個人の考えをアウトプットさせることを促します。\*グループワークを通じて、チームでの考えをアウトプットさせることを促します。\*繰り返し、検討 発表のアウトプット型の授業を行うことで、大学院生に必要な、自ら考え進める力を養いたいと思います。

1. ガイダンス (受講希望者が40名を超える場合は抽選)
2. ベンチャービジネスとは何か?(講義・ディスカッション) マネジメントとは何か?(講義・ディスカッション)
3. ビジネスモデルとは?(講義・ディスカッション)
4. ビジネスモデル作成 (グループワーク)
5. ビジネスモデルの発表と検討 (グループワーク・ディスカッション)
6. ビジネスモデルのまとめ (講義・ディスカッション)
7. 大学発ベンチャーを取り巻く環境 (講義・ディスカッション)
8. 大学発ベンチャーと知的財産 (講義・ディスカッション)
9. 大学研究成果実用化のためのビジネスモデル作成 (グループワーク)
10. ビジネスモデルの発表と検討 (グループワーク・ディスカッション)
11. ビジネスモデルのまとめ (講義・ディスカッション)
12. 大学発ベンチャーとお金 (講義・ディスカッション)
13. 大学発ベンチャーの決算書は?(ケーススタディ・ディスカッション)
14. これまでのビジネスモデルを再作成 (グループワーク)
15. ビジネスモデルの発表と検討 (グループワーク・ディスカッション)
16. ビジネスモデルのまとめ (講義・ディスカッション)
17. 歴史上の起業家から見るベンチャービジネス (講義・ディスカッション)
18. 受講生1分間スピーチとまとめ

[教科書・参考書] MBAのための企業家精神講義 (同文館出版)

[評価方法・基準] レポート、グループ演習並びにディスカッションへの参加状況、出席状況により総合的に判断する

T20000301

授業科目名: 技術者倫理	
科目英訳名: Ethics for Scientists and Engineers	
担当教員: 安藤 昭一, (鹿志村 洋次)	
単位数: 2.0 単位	開講時限等: 後期金曜 5 限
授業コード: T20000301	講義室: 自然科学系総合研究棟 2 マルチメディア

#### 科目区分

2014 年入学生: 選択科目 S30 (T211:工学研究科建築学コース(前期), T212:工学研究科都市環境システムコース(前期), T221:工学研究科デザイン科学コース(前期), T231:工学研究科機械系コース(前期), T232:工学研究科電気電子系コース(前期), T233:工学研究科メディカルシステムコース(前期), T241:工学研究科共生応用化学コース(前期), T251:工学研究科建築学コース(後期), T252:工学研究科都市環境システムコース(後期), T261:工学研究科デザイン科学コース(後期), T271:工学研究科機械系コース(後期), T272:工学研究科電気電子系コース(後期), T273:工学研究科メディカルシステムコース(後期), T281:工学研究科共生応用化学コース(後期))

[授業の方法] 講義

[受入人数] 90名以下

[授業概要] 技術者倫理を「科学技術に携わるものの倫理」として構成し、技術者に限らず科学技術を利用する企業の経営者をも視野に入れる。話題提供と実例を用いるオムニバス形式を採用し、一部グループ討論などを行うことにより、講義を展開する。

[目的・目標] 学部の「技術と倫理」の講義と多少ダブルかもしれないが、若き研究者（大学院生など若手研究者を含む）を対象に、科学技術の社会に及ぼす影響や効果について、歴史的な展開や現在の状況などを例にして、技術者・研究者としての社会的責任を理解し、今後の仕事を行う上での規範となるよう学習する。

[授業計画・授業内容] 技術、知財、環境、企業（CSR、内部統制）、情報、生命、研究に関する技術者倫理について、15回講義します。まとまりごとにレポート等の提出がありますので、出席には注意してください。担当の先生は、滝口孝一先生ほか富士ゼロックスの先生方と園芸学研究科の安藤昭一先生が講義を行います。ガイダンスとまとめは落合が行います。・ガイダンス（落合）・技術と倫理 滝口先生・生命と倫理 安藤先生・知財と倫理 平野先生・企業と倫理 1 CSR 澁谷先生・企業と倫理 2 内部統制 渡邊先生・情報と倫理 鹿志村先生・環境と倫理 田中先生・まとめ（落合）

[教科書・参考書] 各先生が講義の際に説明。

[評価方法・基準] 評価は出席、各回のレポート課題の提出、および最終回にて全体レポート提出により、判定する。

[履修要件] 特になし

[備考] 以上の案内等は、大学院学務などの掲示板および落合・青木グループのホームページ（[http://www.em.eng.chiba-u.jp/~lab22/index\\_ochiai.html](http://www.em.eng.chiba-u.jp/~lab22/index_ochiai.html)）に掲示予定。落合は、融合科学研究科ナノサイエンス専攻で、研究室は自然系総合研究棟 2号棟 1階 102です。

T20000401

授業科目名：技術完成力プログラム	
科目英訳名：Ability to Complete in Technology	
担当教員	：藤井 知
単位数	：2.0 単位
開講時限等	：前期月曜 4 限
授業コード	：T20000401
講義室	：
普遍教育センター B 号館	

#### 科目区分

2014 年入学生：選択科目 S30（T211:工学研究科建築学コース（前期）、T212:工学研究科都市環境システムコース（前期）、T221:工学研究科デザイン科学コース（前期）、T231:工学研究科機械系コース（前期）、T232:工学研究科電気電子系コース（前期）、T233:工学研究科メディカルシステムコース（前期）、T241:工学研究科共生応用化学コース（前期）、T251:工学研究科建築学コース（後期）、T252:工学研究科都市環境システムコース（後期）、T261:工学研究科デザイン科学コース（後期）、T271:工学研究科機械系コース（後期）、T272:工学研究科電気電子系コース（後期）、T273:工学研究科メディカルシステムコース（後期）、T281:工学研究科共生応用化学コース（後期））

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 産業界にて活躍が期待されるエンジニアや研究者の姿を示しながら、技術経営について講義を行う。また、学外にて活躍しているエンジニアから、実際の市場分析や技術トレンドを基にした研究～製品の課程におけるプロセスやマネジメントについて紹介する。後半では、知的財産について概要及び特許出願等について講義を行う。

[目的・目標] 技術をベースとする企業における技術経営について理解を深め、「新製品・新サービス（新しい価値）を創出する技術完成力を身につける。

[授業計画・授業内容] 以下のような内容の講義をオムニバス形式で行う。学内の講師が技術経営と知財の概要について講義を行う。学外からは企業エンジニアの講師が各社の実際の製品・サービスについて講義を行い、ケーススタディとして技術経営を学ぶ。

1. 技術完成力の概要
2. 製品開発マーケティングおよび製品化プロセス
3. 半導体デバイス 開発事例紹介
4. 通信機器 開発事例紹介
5. 薬学バイオ 開発事例紹介
6. 家電製品 開発事例紹介

7. 企業の製品開発および事業化
8. 電気自動車 開発事例紹介
9. 家電製品 開発事例紹介
10. 医療機器 開発事例紹介
11. 企業及び国における研究活動の役割
12. 製品開発マネジメントまとめと知財マネジメントの概要
13. 知的財産権に関する知識全般
14. 知的財産権と研究活動
15. 知的財産権と企業活動
16. 技術完成力プログラム総括・発表

[キーワード] イノベーション、技術経営、MOT、知的財産権

[教科書・参考書] 授業の都度配布プリントにより講義する。参考文献として以下のものを示す。(1) MOTの基本と実践がよくわかる本 ISBN978-7-7980-2184-3、(2) テクノロジーマーケティング ISBN978-4-382-05537-7、(3) MOTテクノロジーマネジメント ISBN4-89346-828-6、(4) 7つの習慣 ISBN978-4-906638-01-7

[評価方法・基準] レポートの期間中3回提出、ディスカッションへの参加、出席状況により総合的に判断する。各レポートのテーマは講義中に示す。また、発明者であることを前提に自ら書いた特許明細書をレポートの代わりに提出することができる。

[履修要件] 工学研究科所属学生のうち、2010年度以降に入学した博士後期課程学生及び2011年度以降に入学した博士前期課程学生のみ修了要件単位として認められます。(それ以前に入学した学生が受講しても修了要件単位として認めることが出来ません。)

[備考] 前期と後期に同じ授業を開講しているのので、どちらかの授業を受講してください。技術完成力の実習の場として、希望者にてグループを作り、日経アイデアコンテストなどの各種コンペへ応募します。また、期間中、企業訪問することもあります。

T20000501

授業科目名：技術経営力プログラム	
科目英訳名：Ability to manage Technology	
担当教員：井上 里志	
単位数：2.0 単位	開講時限等：前期水曜 4 限
授業コード：T20000501	講義室：
普遍教育センター B 号館	

#### 科目区分

2014 年入学生：選択科目 S30 (T211:工学研究科建築学コース(前期), T212:工学研究科都市環境システムコース(前期), T221:工学研究科デザイン科学コース(前期), T231:工学研究科機械系コース(前期), T232:工学研究科電気電子系コース(前期), T233:工学研究科メディカルシステムコース(前期), T241:工学研究科共生応用化学コース(前期), T251:工学研究科建築学コース(後期), T252:工学研究科都市環境システムコース(後期), T261:工学研究科デザイン科学コース(後期), T271:工学研究科機械系コース(後期), T272:工学研究科電気電子系コース(後期), T273:工学研究科メディカルシステムコース(後期), T281:工学研究科共生応用化学コース(後期))

[授業の方法] 講義

[授業概要] 新製品をもとに事業を発展させる技術経営力を身につけるため、マクロ・ミクロ経済学、企業経営理論、経営法務、生産マネジメント、情報システム、経営財務分析・評価、ベンチャービジネスマネジメント、中小企業経営他の講義等を行う。

[目的・目標] 新製品をもとに事業を発展させる技術経営力を身につける。

[授業計画・授業内容]

1. 技術経営力概論
2. マクロ・ミクロ経済学
3. マクロ・ミクロ経済学
4. マクロ・ミクロ経済学
5. 企業経営理論およびマーケティング
6. 経済/経営およびマーケティング関連まとめ

7. 経営法務
8. 運営管理
9. 経営財務分析および評価
10. 経営財務分析および評価
11. 法律、製造、経営分析まとめ
12. 情報システム
13. ベンチャ - ビジネス論
14. 中小企業経営および施策
15. ベンチャービジネスマネジメント
16. 技術経営カプログラム総括

[評価方法・基準] 講義中に指示する

[履修要件] 工学研究科所属学生のうち、2010 年度以降に入学した博士後期課程学生及び 2011 年度以降に入学した博士前期課程学生のみ修了要件単位として認められます。(それ以前に入学した学生が受講しても修了要件単位として認めることが出来ません。)

[備考] 前期と後期に同じ授業を開講しているため、どちらかの授業を受講してください。

T20000701

授業科目名： 国際研究実習 Ia	
科目英訳名： International Research Activities Ia	
担当教員： 各教員	
単位数： 1.0 単位	開講時限等： 通期
授業コード： T20000701	講義室：

#### 科目区分

2014 年入学生： 選択科目 S30 ( T211:工学研究科建築学コース (前期), T212:工学研究科都市環境システムコース (前期), T221:工学研究科デザイン科学コース (前期), T231:工学研究科機械系コース (前期), T232:工学研究科電気電子系コース (前期), T233:工学研究科メディカルシステムコース (前期), T241:工学研究科共生応用化学コース (前期) )

[授業の方法] 実習

[受入人数] 制限なし

[受講対象] 工学研究科博士前期課程の学生のみ

[授業概要] 研究活動に関連して海外で開催される国際会議等における発表、大学・研究所等の海外の研究機関における実習・調査活動等を評価する科目である。

[目的・目標] 海外で開催される国際会議等における発表、大学や研究所など海外研究機関における実習活動やワークショップ、短期留学など、海外における研究関連の実習を通して視野を広げ、国際的な活動を進める能力を養うことを目的とする

[授業計画・授業内容] 海外で開催される国際会議等における発表、大学や研究所など海外研究機関における実習活動やワークショップ、短期留学など、海外における研究関連の実習に加えて、海外活動に先立ち、国内において相当の準備・練習を行い、さらに、帰国してから、報告会の開催・報告書等の作成等を行う。現地での実習時間 20 時間以上を含めて、総実習時間は 30 時間以上である。複数回の渡航が含まれる場合もある。

[評価方法・基準] 指導教員またはプログラム担当教員が、海外活動の実態・事前事後の学修状況および提出された報告書等に基づいて、海外研究活動に対する取り組み姿勢・能力を評価する。

[備考] 本実習科目の履修希望者は、履修登録をしないこと。履修希望学生は、指導教員（あるいは海外派遣プログラム担当教員）と相談の上、実習プログラムを作成し、了承を得てから実習を行い、事後報告等が完了した後、所定様式の報告書を作成し、指導教員（担当教員）に提出すること。指導教員（担当教員）が本実習科目の評価（点）を報告書に記入し、当該学生が所属するコースの承認を得た上で、大学院学務 Gr に提出することにより、履修登録が行われる。

T20000801

授業科目名： 国際研究実習 Ib  
 科目英訳名： International Research Activities Ib  
 担当教員： 各教員  
 単位数： 2.0 単位  
 開講時限等： 通期  
 授業コード： T20000801  
 講義室：

## 科目区分

2014 年入学生： 選択科目 S30 ( T211:工学研究科建築学コース (前期), T212:工学研究科都市環境システムコース (前期), T221:工学研究科デザイン科学コース (前期), T231:工学研究科機械系コース (前期), T232:工学研究科電気電子系コース (前期), T233:工学研究科メディカルシステムコース (前期), T241:工学研究科共生応用化学コース (前期) )

[授業の方法] 実習

[受入人数] 制限なし

[受講対象] 工学研究科博士前期課程の学生のみ

[授業概要] 研究活動に関連して海外で開催される国際会議等における発表, 大学・研究所等の海外の研究機関における実習・調査活動等を評価する科目である。

[目的・目標] 海外で開催される国際会議等における発表, 大学や研究所など海外研究機関における実習活動やワークショップ, 短期留学など, 海外における研究関連の実習を通して視野を広め, 国際的な活動を進める能力を養うことを目的とする

[授業計画・授業内容] 海外で開催される国際会議等における発表, 大学や研究所など海外研究機関における実習活動やワークショップ, 短期留学など, 海外における研究関連の実習に加えて, 海外活動に先立ち, 国内において相当の準備・練習を行い, さらに, 帰国してから, 報告会の開催・報告書等の作成等を行う。現地での実習時間 40 時間以上を含めて, 総実習時間は 60 時間以上である。複数回の渡航が含まれる場合もある。

[評価方法・基準] 指導教員またはプログラム担当教員が, 海外活動の実態・事前事後の学修状況および提出された報告書等に基づいて, 海外研究活動に対する取り組み姿勢・能力を評価する。

[備考] 本実習科目の履修希望者は, 履修登録をしないこと。履修希望学生は, 指導教員 (あるいは海外派遣プログラム担当教員) と相談の上, 実習プログラムを作成し, 了承を得てから実習を行い, 事後報告等が完了した後, 所定様式の報告書を作成し, 指導教員 (担当教員) に提出すること。指導教員 (担当教員) が本実習科目の評価 (点) を報告書に記入し, 当該学生が所属するコースの承認を得た上で, 大学院学務 Gr に提出することにより, 履修登録が行われる。

T20000901

授業科目名： 国際研究実習 IIa  
 科目英訳名： International Research Activities IIa  
 担当教員： 各教員  
 単位数： 1.0 単位  
 開講時限等： 通期  
 授業コード： T20000901  
 講義室：

## 科目区分

2014 年入学生： 選択科目 S30 ( T251:工学研究科建築学コース (後期), T252:工学研究科都市環境システムコース (後期), T261:工学研究科デザイン科学コース (後期), T271:工学研究科機械系コース (後期), T272:工学研究科電気電子系コース (後期), T273:工学研究科メディカルシステムコース (後期), T281:工学研究科共生応用化学コース (後期) )

[授業の方法] 実習

[受入人数] 制限なし

[受講対象] 工学研究科博士後期課程の学生のみ

[授業概要] 研究活動に関連して海外で開催される国際会議等における発表, 大学・研究所等の海外の研究機関における専門的な実習・調査活動等を評価する科目である。

[目的・目標] 海外で開催される国際会議等における発表, 大学や研究所など海外研究機関における実習活動やワークショップ, 短期留学など, 海外における研究関連の実習を通して視野を広め, 国際的な活動を高度に進める能力を養うことを目的とする。

[授業計画・授業内容] 海外で開催される国際会議等における発表，大学や研究所など海外研究機関における実習活動やワークショップ，短期留学など，海外における研究関連の実習に加えて，海外活動に先立ち，国内において相当の準備・練習を行い，さらに，帰国してから，報告会の開催・報告書等の作成等を行う。現地での実習時間 20 時間以上を含めて，総実習時間は 30 時間以上である。複数回の渡航が含まれる場合もある。

[評価方法・基準] 指導教員またはプログラム担当教員が，海外活動の実態・事前事後の学修状況および提出された報告書等に基づいて，海外研究活動に対する取り組み姿勢・能力を評価する。

[備考] 本実習科目の履修希望者は，履修登録をしないこと。履修希望学生は，指導教員（あるいは海外派遣プログラム担当教員）と相談の上，実習プログラムを作成し，了承を得てから実習を行い，事後報告等が完了した後，所定様式の報告書を作成し，指導教員（担当教員）に提出すること。指導教員（担当教員）が本実習科目の評価（点）を報告書に記入し，当該学生が所属するコースの承認を得た上で，大学院学務 Gr に提出することにより，履修登録が行われる。

T20001001

授業科目名： 国際研究実習 IIb	
科目英訳名： International Research Activities IIb	
担当教員： 各教員	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 通期
授業コード： T20001001	講義室：

#### 科目区分

2014 年入学生： 選択科目 S30（T251:工学研究科建築学コース（後期），T252:工学研究科都市環境システムコース（後期），T261:工学研究科デザイン科学コース（後期），T271:工学研究科機械系コース（後期），T272:工学研究科電気電子系コース（後期），T273:工学研究科メディカルシステムコース（後期），T281:工学研究科共生応用化学コース（後期））

[授業の方法] 実習

[受入人数] 制限なし

[受講対象] 工学研究科博士後期課程の学生のみ

[授業概要] 研究活動に関連して海外で開催される国際会議等における発表，大学・研究所等の海外の研究機関における専門的な実習・調査活動等を評価する科目である。

[目的・目標] 海外で開催される国際会議等における発表，大学や研究所など海外研究機関における実習活動やワークショップ，短期留学など，海外における研究関連の実習を通して視野を広め，国際的な活動を高度に進める能力を養うことを目的とする。

[授業計画・授業内容] 海外で開催される国際会議等における発表，大学や研究所など海外研究機関における実習活動やワークショップ，短期留学など，海外における研究関連の実習に加えて，海外活動に先立ち，国内において相当の準備・練習を行い，さらに，帰国してから，報告会の開催・報告書等の作成等を行う。現地での実習時間 40 時間以上を含めて，総実習時間は 60 時間以上である。複数回の渡航が含まれる場合もある。

[評価方法・基準] 指導教員またはプログラム担当教員が，海外活動の実態・事前事後の学修状況および提出された報告書等に基づいて，海外研究活動に対する取り組み姿勢・能力を評価する。

[備考] 本実習科目の履修希望者は，履修登録をしないこと。履修希望学生は，指導教員（あるいは海外派遣プログラム担当教員）と相談の上，実習プログラムを作成し，了承を得てから実習を行い，事後報告等が完了した後，所定様式の報告書を作成し，指導教員（担当教員）に提出すること。指導教員（担当教員）が本実習科目の評価（点）を報告書に記入し，当該学生が所属するコースの承認を得た上で，大学院学務 Gr に提出することにより，履修登録が行われる。